

(6) 各教科領域における学校図書館活用方法

教科教室型の授業に合わせて

荒川区立第三中学校図書館 編



実践事例	
1	対象(年齢・学年)等 : 中学校1～3年生
2	実施時期 : 通年(4月～3月)
3	概要 : 教科教室型の授業を実施している学校の特色を生かした学校図書館のあり方を探り、生徒にとって活用しやすく、居心地のよい空間を創造する。
4	内容 ① 各階にある図書コーナー 本校の学校図書館は3階にあるが、各階に広さが2教室分程度のフリースペースに図書コーナーを設置している。2階は国語科と社会科の教室があるので、国語辞典などの辞典類や漢字検定の問題集、9類の図書資料と社会科の資料や歴史などの図書資料を常設している。また、社会科で学習した成果物や習字の作品などを掲示することが多い。3階は数学科と理科の教室があるので、数学関係の資料やワークシート、理科に関する資料と図書が用意されている。 ② 授業で活用される学校図書館 本校では授業で学校図書館を活用することが多い。国語科では戦争に関連した図書やビデオ、新聞などを担任や学校図書館指導員(学校司書)が紹介し、そこから戦争に関する感想文を書くなどの学習を行っている。また、英語科では絵本を使ってアニメーションを取り入れた授業を展開することもある。調べる学習も行われることが多く、12,710冊(12月15日現在)の本が揃っていることもあって、生徒はネットの情報と図書資料の情報をうまく使い分けて活用するようになってきた。 ③ 居心地のよい場所づくり 教科ごとに教室を移動するので、移動時にちょっと学校図書館に顔を出す生徒が多い。以前は入口付近にはあまりスペースがなかったが、生徒が少しの時間でもくつろげるよう、畳やソファのあるスペースを用意した。生徒はこの場所を好んで活用している。また、奥には一人で学習できるコーナーも設けた。ここでは数人で共通の調べ物をすることもある。近隣の小学校との交流も多く、この学校図書館からそのきっかけを生み出す生徒もいる。
5	参加者の反応 本校の学校図書館の開館日数は22年度253日で、夏季休業中も22日開館した。今年の開館も4～8月で104日。開館日が多い理由は、図書館ボランティアの協力も得られるからである。このようにいつも開いていて、学校図書館指導員(学校司書)が図書の整理や管理をきちんとしている学校図書館は、生徒たちの憩いの場であり、学習がいつでもできるという安心の場となっている。
6	連携した諸機関 荒川区立図書館(必要な図書資料の補充をお願いする) 荒川区教育委員会学校図書館支援室(資料などの情報を得る)